

英語

教科のねらい

より高度な教材を学習することで、今までに養われた文法力、読解力、表現力を更に伸ばし、英語によるコミュニケーション活動が行えるようになることをめざす。またリスニング力の重要性に対応するため、様々な種類のリスニング演習を多く行う。語法や文法の演習、読解演習を通し、英語力を確かにして、自らの進路を切り開く力とする。また読解演習を通して幅広い教養を身につけることをめざす。

英語コミュニケーションⅢ（必修）	単位数	3	105時間
------------------	-----	---	-------

1. 学習の到達目標

学習の到達目標	1) 英語コミュニケーションⅠ・Ⅱで養った読解力を更に高め、基本英文や構文を用いて作文力を向上させると共に、それをベースに発信力・表現力を涵養する。 2) リスニングについても、授業でのリスニングドリルや生徒同士、生徒と教師の英語によるインターラクティブな活動を通して大学入試に十分対応できるようにする。 3) 中堅国公立大学の2次試験に必要なレベルの単語力養成を目指す。
使用教科書・副教材等	【英語コミュニケーションⅢ】 1) Heartening English CommunicationⅢ（桐原書店） 2) Jet Reading Level 4（数研出版） 【英単語】 システム英単語（駿台出版）

2. 学習計画および評価方法

学期	学 習 内 容	月	学 習 の ね ら い
第1学期	<i>Heartening English Communication III</i>	4	Heartening English CommunicationⅢ L1 ~ L6
	毎週、単語教材を小テスト形式で出題する	5	4技能を高めること意識しながら、教材を深く理解していく。大学入試へ向けた日常的な英語学習のペースメイクも行う。
		6	
	【 課題・提出物等 】		
課題帳、ノート			
【 テスト範囲 】			
毎週、システム英単語（駿台文庫）を小テスト形式で出題する			
中間テスト 授業で扱った内容＋各教材で指定する範囲（その都度、発表する）			
期末テスト 授業で扱った内容＋各教材で指定する範囲（その都度、発表する）			
【 第1学期の評価方法 】			
【知識・技能】 主に評価問題（定期テスト）・小テストにより評価			
【思考・判断・表現】 主に評価問題（定期テスト）・小テスト・提出物・発表活動により評価			
【主体的に学習に取り組む態度】主にレポート・提出物・生徒による自己評価・相互評価により評価			
【各学期の評価方法】			
【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】をそれぞれ数値化し、各観点を50%：30%：20%の割合で総括して、10段階評定とする。			

第2学期	Heartening English CommunicationⅢ	7	Heartening English CommunicationⅢ	L7 ～ L10
	毎週、単語教材を小テスト形式で出題する	8	科学技術と倫理学、日本文化、言語・コミュニケーション、医療と倫理学の英文をより深く理解する。大学入試へ向けた日常的な英語学習のペースメイクも行う。	
		9		
		10		
		11		
[課題・提出物等]				
課題帳、ノート				
[テスト範囲]				
毎週、システム英単語（駿台文庫）を小テスト形式で出題する				
中間テスト 授業で扱った内容＋各教材で指定する範囲（その都度、発表する）				
期末テスト 授業で扱った内容＋各教材で指定する範囲（その都度、発表する）				
[第2学期の評価方法]				
第1学期と同様に評価する				
第3学期	共通テスト対策 二次・私大対策	12	総合問題演習	
		1		
		2		
	[課題・提出物等]			
	なし			
[テスト範囲]				
期末テスト 大学入試と時期が重なるため、実施しない。				
[3学期の評価方法]				
第1学期、第2学期と同様に評価する				
[年間の学習状況の評価方法]				
【知識・技能】 主に評価問題（定期テスト）・小テストにより評価				
【思考・判断・表現】 主に評価問題（定期テスト）・小テスト・提出物・発表活動により評価				
【主体的に学習に取り組む態度】主にレポート・提出物・生徒による自己評価・相互評価により評価				
【各学期の評価方法】				
【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】をそれぞれ数値化し、各観点を50％：30％：20％の割合で総括して、10段階評定とする。				
【授業を受けるに当たって守ってほしい事項】				
英語は自分で学習しないと、その力は伸びない。授業も「予習—授業—復習」という主体的な学習の中に位置づけること。疑問を持ったらずぐに辞書をその場でひく、書き込む、参考書で確認する、など能動的な姿勢で授業に臨み、力を伸ばしてほしい。				